

MATSUI Takeshi

松井 健 マツイ タケシ

准教授

博士（健康科学：川崎医療福祉大学）

早稲田大学教育学部卒業(1986)、順天堂大学大学院体育学研究科修了(1988)、川崎医療福祉大学大学院医療技術学研究科修了(2002)、中京大学体育研究所実験実習助手(1988～1991)、中京大学大学院体育学研究科研究生(1991～1995)、日本福祉大学非常勤講師(1991～1995)、吉備国際大学社会福祉学部助手(1995～1999)、吉備国際大学社会福祉学部講師(1999～2003)、川崎医療福祉大学非常勤講師(2002～2007)、日本福祉大学通信教育部非常勤講師(2003～2004)、日本福祉大学赴任(2004)。

#### 【研究分野】

応用健康科学.

#### 【キーワード】

生涯スポーツマネジメント、健康・体力、運動処方、トレーニング、水泳・水中運動、循環器系調節.

#### 【担当授業科目】

学 部：生涯スポーツマネジメント、ふくしスポーツ、  
フィットネスエクササイズ演習、専門演習、  
卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ.

通学大学院：医療福祉経営演習Ⅱ.

通信教育部：スポーツマネジメント、障害者スポーツ研究.

#### 【主な研究テーマ】

##### 1. 生涯スポーツマネジメントと地域支援

超高齢社会の現代社会において、個人が生涯にわたってスポーツ活動を継続し、マネジメントすることの意義やその社会的効果を明らかにする。スポーツクラブの経営、スポーツ・レクリエーションを用いた地域支援（総合型地域スポーツクラブ、特定保健指導）など、社会的側面のマネジメント方法についても研究する。

#### 【主な研究業績】

##### <著書>

- 『体力とはなにかー運動処方のその前にー』 総頁237p, 共著, 「2 体力の要素」 pp.10-20, ナップ, 2007.03.
- 『水泳コーチ教本(第2版)』 総頁532p, 共著, 「第1章3項の① 水泳の基礎生理学」 pp.27-33, 大修館書店, 2005.12.
- 『健康と生涯スポーツ』 総頁103p, 単著, 学校法人日本福祉大学, 2003.04.
- 『スポーツ生理学』 総頁244p, 共著, 「水泳競技の生理学」 pp.117-123, 市村出版, 2001.11.

##### <論文>

- 「筋電図と映像分析からみた介助動作の特徴ー体位変換動作と車いす移乗動作についてー」, 『日本福祉大学情報社会科学論集』第11巻, 共著, 日本福祉大学情報社会科学部・日本福祉大学情報社会システム研究所, 2008.03, pp.1-14.
- “Effect of aging on carotid artery stiffness and baroreflex sensitivity during head-out water immersion in man” (男性におけるヘッドアウト・イマージョン中の頸動脈の硬さ及び圧反射感受性に及ぼす加齢の影響), Brazilian Journal of Medical and Biological Research Vol.38 No.4, 共著, Associacao Brasileira De Divulgacao Cientifica, 2005.04, pp.629-637.
- 「中高年者の循環器系自律神経調節に及ぼす入浴および運動後入浴の影響」, 『デサントスポーツ科学』Vol.25, 共著, 石本記念デサントスポーツ科学振興財団, 2004.06, pp.145-157.
- 「水浸時の循環器系応答と水中回復」, 『水泳水中運動科学』Vol.6, 単著, 日本水泳水中運動学会, 2004.03, pp.5-11.

- 「水の特性をトレーニングに生かす」, 『バイオメカニクス研究』Vol.6 No.4, 単著, 日本バイオメカニクス学会, 2002.12, pp.281-291.
- 「陸上定常負荷運動後の水中浸漬が全身循環の回復過程に及ぼす影響」, 『体力科学』Vol.51 No.3, 共著, 日本体力医学会, 2002.06, pp.265-274.
- 「運動頻度が持久的トレーニング時の循環系応答に及ぼす影響」, 『吉備国際大学社会福祉学部研究紀要』Vol.5, 共著, 吉備国際大学, 2000.03, pp.105-113.
- 「要介護老人の24時間心拍数と身体活動レベルー老人保健施設入所者を対象としてー」, 『吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要』Vol.1, 共著, 吉備国際大学保健福祉研究所, 2000.03, pp.25-34.
- “Cardiovascular responses during moderate water exercise and following recovery.”, 『Biomechanics and Medicine in Swimming VIII』(eds. Keskinen, K.L., Komi, V., Hollander, A.), 共著, Gummerus Printing, Jyvaskyla, Finland, 1999.12, pp.345-350.
- 「主観的運動強度設定に基づく高齢者の水中運動療法の有効性について」, 『臨床スポーツ医学』Vol.16 No.12, 共著, 文光堂, 1999.12, pp.1469-1473.

##### <学会発表>

- コホートデータを用いた高齢者の身体活動量とうつ状態との関連ー歩行時間とスポーツ参加の3年間の変化に着目してー, 第14回日本体力医学会東海地方会学術集会 実行委員会 会長 押田芳治, 2010.03.
- 高齢者水中ウォーキング教室参加者における血圧脈波伝播速度の経年変化, 日本体力医学会, 第64回日本体力医学会大会実行委員会, 2009.09.
- 高齢者における水中運動トレーニングが中心動脈スティフネスに及ぼす影響, ヨーロッパスポーツ科学学会, 2008.07.
- 入浴および運動後入浴が中高年者の循環器系自律神経調節に及ぼす影響, ヨーロッパスポーツ科学学会, 2006.07.
- 入浴および運動後入浴が中高年者の循環器系自律神経調節に及ぼす影響, 第59回日本体力医学会(2004.9.14-16), 2004.09.
- 自閉症児のエンパワメント向上のための水中運動の実践, 第58回日本体力医学会(2003.9.19-21), 2003.09.

##### 【所属学会】

日本体育学会(1986～), 日本体力医学会(1986～, 評議員2002～), 日本バイオメカニクス学会(1986～), 日本運動生理学会(1992～), アメリカスポーツ医学会(1995～), 日本水泳・水中運動学会(1997～, 諮問委員2003, 2005～), 国際バイオメカニクス学会(1999～), ヨーロッパスポーツ科学学会(2004～), 東海体育学会(2004～), 日本障害者スポーツ学会(2007～), 日本スポーツ産業学会(2007～).

##### 【社会における活動と仕事】

日本体力医学会 評議員(2002～), 日本水泳連盟 医・科学委員会委員(2003～), 日本水泳連盟 評議員(2005～2009), 日本水泳・水中運動学会 諮問委員(2005～), 日本水泳連盟 競泳委員会委員(2008～).